

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに。

福祉くるべ



手をつなごう。

2023
04
April

特集「業種を越えて助け合えるまち 黒部」

ボランティア活動保険のご案内

豊かな暮らし探検隊@黒部

広がる食料支援の輪

【編集・発行】 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 令和5年4月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。来館時にはマスクの着用、検温、手指消毒を推奨しています。

2023
4

介護予防のための

元気はつらつ体操教室

黒部市福祉センター
TEL.(0765)54-1082

★新規参加者随時受付中

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4 自力整体	5 健康体操	6 自力整体	7 健康体操	8
9	10	11 脳トレ	12 体操	13	14 音楽療法	15
16	17	18 健康体操	19 自力整体	20 音楽療法	21 自力整体	22
23	24	25 音楽療法	26 音楽療法	27 体操	28	29 昭和の日
30	5/1	2	3	4	5	6

健康体操

樋口 瞬 先生

音楽療法

岡島 聡子 先生

自力整体

稲田 清美 先生

脳トレ

くろべ 脳トレクラブ

体操

小森 亜希子 先生

は休館日

時間/10:00~11:00

対象/65歳以上の方

参加費/300円(入館料のみ)

★令和4年4月より、生き生き倶楽部の予定は広報くるべにて掲載しております。

健康の



知識

閉じこもりの3大原因



ココロ

家族に迷惑をかけたくない。
独りの生活で元気が出ない。
何にも興味がわからない。



からだ

足腰が痛くて歩くのがつらい。
転倒への不安がある。体力がない。



環境

自宅前に段差が多い。
出かける交通手段がない。
友人や知人が近くにいない。

出典：一般社団法人 富山県作業療法士会



今月の表紙

生後9ヶ月の結奈ちゃんと8ヶ月の小夏ちゃん。時間が経つごとに二人の距離は縮まり、小夏ちゃんが手を差し伸べて初めての握手。「手をつなぐっていいかも」と感じていそうな結奈ちゃん。二人ともかわいいですね。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 **黒部市社会福祉協議会**

<http://www.kurobesw.com/>



本所 黒部市福祉センター内

〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

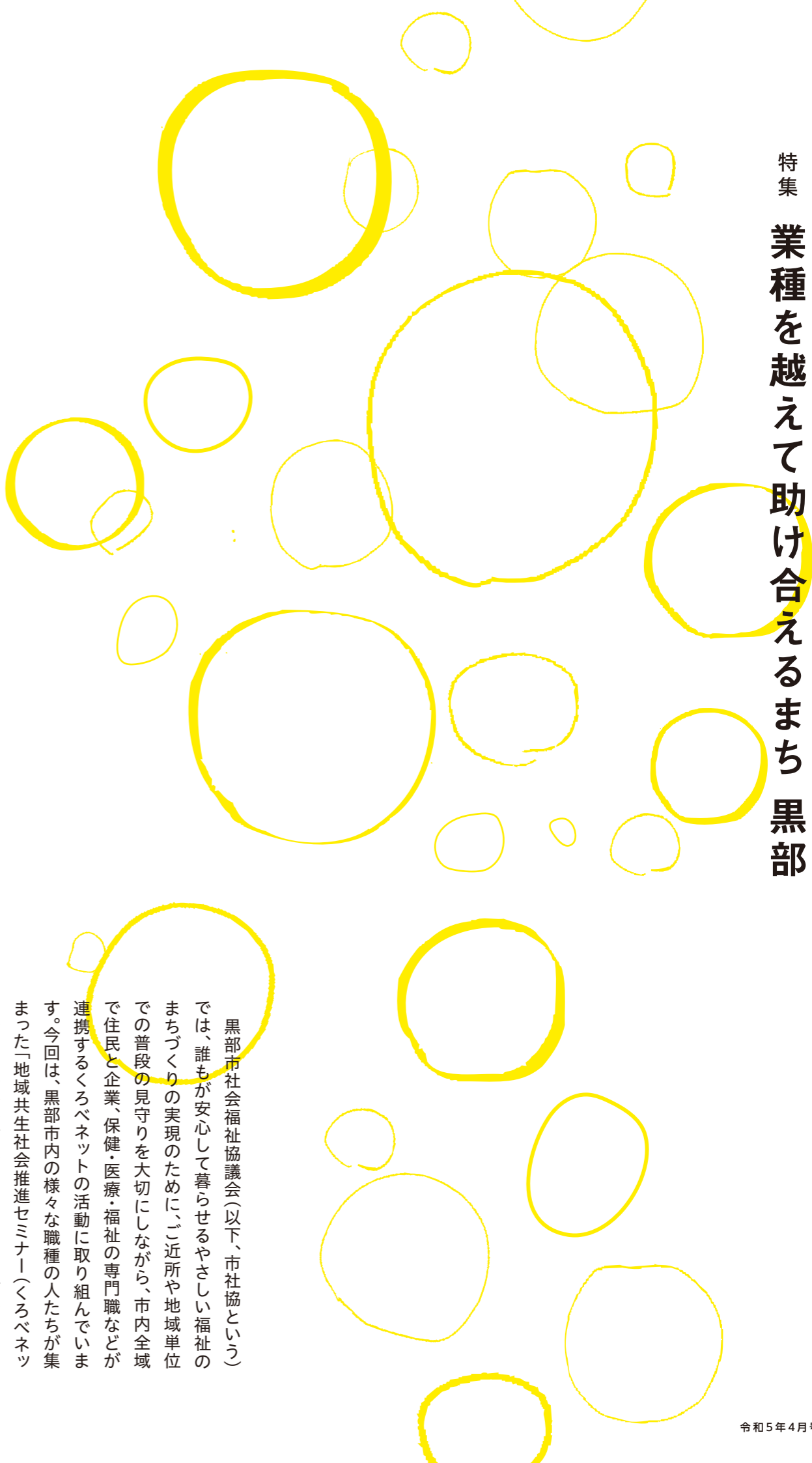
宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市ふれあい福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

私たちは5GOALS for 黒部を推進しています



ちよこつと情報

〔黒部市の人口〕39,928人 〔65歳以上の人口〕12,868人 高齢化率 32.2% R5.2.28 現在



黒部市社会福祉協議会（以下、市社協という）では、誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの実現のために、「近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、市内全域で住民と企業、保健・医療・福祉の専門職などが連携するくろベネットの活動に取り組んでいます。今回は、黒部市内の様々な職種の人たちが集まった「地域共生社会推進セミナー（くろベネット企業版研修会）」から、一人ひとりができることを考えます。

つながりが地域を変える

セミナーでは、認定特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事の田尻佳史（たじりよしふみ）さんから「セクターを超えたつながりが、黒部市の地域を変える」と題して講義がありました。

現在の日本の人口は1970年と比べて約1800万人増加した一方で、黒部市の人口は約1万人減少しています。人口減少は他市町村でも起きていますが、それによって私たちが受けられるサービスが変化するかもしれないと田尻さんは言います。世界規模では金融危機、気候変動、食糧危機、もっと身近なところでは、少子高齢化、失業、貧困、虐待など問題は多様化しているのに支える人は減少。さらに、行政システムの変化によりサービスが「与えられる時代」から「選ぶ時代」に。「今社会に求められているのは、行政だけではなくて企業も市民もみんな一緒に話し合って足りないサービス



全国での取り組みを交えて話される日本NPOセンターの田尻常務理事

スヤしくみを創っていくことです。例えば、小学生の下校時間に合わせて防犯パトロール車を走らせる人手が足りないときは、企業が1時間ボランティアに協力すると地域参加になりますよね。各社から1人ずつ協力して10社で10人が集まれば見守り活動も活発になるし、これまで各組織で感じていた負担を分散して課題を解決できるようになります」と田尻さんは話します。

自分たちの得意分野を活かす

次に、黒部商工会議所青年部（以下、黒部YEGという）会長の松田卓（まつただすむね）さんと黒部ライオンズクラブ（以下、黒部LCという）会長の熊野弘（くまのひろし）さんがそれぞれの取り組みを報告しました。

黒部YEGは、市内の建築業、建設業、製造業、自動車整備業、飲食業、介護事業などで働く30代から40代の会員77名で構成されています。平成27年に「何か地域に貢献できることはないだろうか」という課題を抱えていた黒部YEGと、制度の狭間で支援が困難な事例を抱える市社協が、お互いの技術と情報を出し合って協力し合ったことがくろベネット活動へ参画したきっかけとなっています。活動1年目



黒部LCの熊野会長（左）と黒部YEGの松田会長（右）

は、お墓周りの草刈りや、公的な支援が受けられない人の家の窓ガラスや畳の貼り替えなどをしました。「私たちが自宅の環境を整えるお手伝いをしたことで福祉サービスを受けられるようになったと言っていただけで、成果があったと思いました」と松田さん。2年目以降も高齢者宅や生活困窮者宅の修繕やごみの個別収集などの支援を市社協とともに行ってきました。昨年には市社協と市内外の企業や団体で取り組んでいる食料支援にも参画し、食料品や生活用品の寄付、仕分けや箱詰め作業にも参加。松田さんは、「ここまで市社協と連携できているのは、顔の見える関係づくりを心がけ、情報共有できる体制を設けたからだと思っています。

そして、黒部市の現状を知ったうえでお互いに無理のない範囲で協力できたことも要因だと思います。若手会員も実際に現場を見て、『自分たちも助けが必要になる日が来るかもしれない』という気持ちになって活動が続いていけば住みよいまちになっていくのかなと思います」と話します。

思いやりを行動へ

黒部市は市内の企業オーナー56名が会員となつて構成されています。これまでに献血運動、献眼運動、海岸沿いの小学校へライフジャケットの寄贈など様々なボランティア活動を行ってきました。昨年の8月には黒部市と市社協と黒部市で「黒部市災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定」を締結。熊野さんは「私たちは奉仕をしたいという気持ちがある一方で、本当に必要な奉仕とは何なのかを知ることも大切だと思うんです。協定を結んで連携することで、実際に何に困っているのか、どんな力を必要としているのかといった情報が入ってくると思います」と話します。

昨年からは食料支援の取り組みもスタート。熊野さんは、「コロナ禍で思うように活動ができなくて何か新しい事業を考えていたときに、フードバンク(※1)・フードドライブ(※2)・

フードパントリー(※3)の取り組みを知り、これならできるかもしれないと思ったんです」と話します。そして、昨年の8月と12月に会員のみなさんに協力をお願いしたところ、たくさんの方が集まりました。「これまでは相手方は喜んでくれるのだろうか、私たちの自己満足で終わっているんじゃないかと、自問自答しながら活動していました。しかし、実際に生活困窮者やひとり親家庭の方々から感謝の言葉をいただき、これは続けていくべきだと感じました」と熊野さん。会員全員で活動の必要性を共通理解しながら進めています。



セミナー参加者同士で交流

無理なく協力し合える地域へ

小地域の課題に対してこれまではそれぞれの団体がそれぞれの目線で解決に向けて活動してきました。これからはそれぞれが持つ専門性、技術、情報をつなぎ合わせることで解決されることも増えていくと思います。市内には地域のために活動する団体がたくさんあります。団体同士がつながり点の活動から面の活動へと広がっていくよう、市社協では様々な団体や職種と連携し、多様化する地域の課題解決に向けて進んでいきます。

※1 フードバンク
包装の傷みなどで、品質に問題がないにもかかわらず流通できなくなった食品を、企業から寄付を受け生活困窮者などに寄付する活動。

※2 フードドライブ
家庭で使いきれない食品を集めて福祉団体や子ども食堂などに寄付する活動。

※3 フードパントリー
支援を必要としている個人や家族に直接食料を提供する活動や子ども食堂などに寄付する活動。

実は黒部で、こんな事やっています!

Vol.26

黒部の良いところを見つけよう!

豊かな暮らし探検隊@黒部では、地域に昔から伝わる生活様式の体験会を実施しています。地元の人たちにとっては当たり前のことでも、他の地域の人にとっては新鮮で興味深いことがたくさんあります。地元の方に教わりながら、これまでに押し寿司やかぶら寿司、味噌などを作ってきました。

冬には猟師と行く里山スノーシュー探検を開催。ウサギ、シカ、イノシシの足跡がたくさん見つかリ、地元の猟師の方から野生動物の特性などを教えてもらえます。

黒部に住んでいる人も、きっといろんな発見があるはず。SNSで情報を発信しているのでチェックしてみてください。



1月に開催した猟師と行く里山探検の様子



豊かな暮らし探検隊@黒部

活動日・活動場所: 随時SNSでお知らせ
問合せ先: yutakanakurobe@gmail.com

Facebook Instagram



お知らせ

ボランティア活動保険のご案内

プラン	基本プラン: 350円 天災・地震補償プラン: 500円 特定感染症重点プラン: 550円
補償期間	加入完了日の翌日から令和6年3月31日まで
受付時間	月～金曜日の8時30分から17時まで (年末年始、祝日を除く)
申込方法	くろべボランティアセンターでは、上記の掛金に対し1人あたり50円の助成を行います。加入申込書に掛金を添えて事務局まで申し込みください。 ※加入申し込みの際にはボランティア登録が必要となります。詳しくは、お問い合わせください。

申込・問合せ 黒部市社会福祉協議会 くろべボランティアセンター
TEL.(0765)54-1082 / FAX.(0765)52-2797

お知らせ

黒部のまちを良くする活動の助成先を公募します



令和6年度実施事業 赤い羽根共同募金助成申請団体の公募を行います。事前にお申込みの上、説明会には必ずご出席ください。

説明会	4月5日(水)13時30分～14時30分 黒部市福祉センター 和室
対象団体	社会福祉法人・NPO法人・地域団体(自治会等)・福祉団体・ボランティア団体
対象事業	地域福祉が目的で、活動区域が黒部市の事業(令和6年4月1日～令和7年3月31日の期間内) ※他の補助金との重複や公的補填がある事業、また営利・経費目的である場合は対象となりません。
助成金	1団体10万円以内 ※団体の規模・事業内容により上限額を変更する場合があります。

申込・問合せ 黒部市共同募金委員会
TEL.(0765)54-1082 / FAX.(0765)52-2797

黒部市福祉センターのお知らせ

休憩時間/8:30~16:00 入浴/10:30~15:30

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。

催し物と休館日のご案内

4月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(3日・10日・17日・24日)
祝日の翌日のため30日は休館日です。

5月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(1日・8日・15日・22日・29日)
祝日の翌日のため4日・5日・6日は休館日です。

ポールウォーキング

14日(金) 13:30~15:00
場所:石田交流プラザ(現地集合)

28日(金) 13:30~15:00
場所:大布施公民館(現地集合)

囲碁・将棋クラブ

金曜日(7日・14日・21日・28日)9:00~15:30
場所:黒部市福祉センター 研修室

今月のクラブ



誕生日のお祝いに福祉センターの入浴券はいかがですか?
11枚綴り・・・3,000円

地域福祉のために

黒部市社会福祉協議会に寄付をいただきました
ありがとうございました



黒部ライオンズクラブ 様

黒部市農協女性部 様

受賞おめでとうございます!

多年にわたり社会福祉の発展に貢献された
功績を称えて、表彰されました。

令和4年度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰
三日市地区ボランティア部会 様

今月の相談日

弁護士と法律相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)
4月18日(火) 13:30~15:30 / 予約受付4月3日より※先着4名
相談内容問わず、年度につき
1人3回までのご利用とさせていただきます。

富山県東部生活自立支援センター 生活自立支援相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)
4月10日(月) 10:00~11:30 / 予約受付4月3日より

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、相談員の変更や中止となることがございますので、ご了承ください。



活動レポート | 2月16日(木)黒部市国際文化センターコラーレ

1年間の振り返りと今後の計画作り

食料支援のしくみづくり ワークショップ第4弾

これまでの活動で良かった点と改善点を挙げ、「食料を集める」、「配布先を調整する」、「食料を配る」、「相談を受ける」の役割のうち、自分たちが「今できること」と「これからやりたいこと」を考え、今後の計画について話し合いました。

食料を集める協力者は増えている一方で、いただいた食料が残らないように受け手を増やすことと食料の管理方法が今後の課題でもあります。令和5年度も引き続きワークショップの開催とフードパントリーの実施を予定しており、様々な立場の人たちが集まってWAWAWA(輪・笑・和)ネットワークとして行うことで継続した食料支援を目指します。



それぞれが書いた
「良かった点」と「改善点」を眺める参加者



グループごとに発表



広がる食料支援の輪

黒部市食生活改善推進協議会、黒部市立宇奈月小学校より食料品の寄付をいただきました。いただいた品物は、生活困窮者や自立支援施設等に配布します。たくさんのご協力ありがとうございました。



黒部市食生活改善推進協議会 様



宇奈月小学校 様